

[報告]

平成 29 年度東北大学サイバーサイエンスセンター顕彰について

東北大学サイバーサイエンスセンターでは、本センターを利用し顕著な貢献があった方や、長年にわたり本センターの運営に貢献した方などに対する顕彰制度を設けており、平成 29 年度は、本学の岩崎俊樹教授に功績賞を授与いたしました。

岩崎教授は、平成 14 年度から継続的に本センターと共同研究を実施するなど、シミュレーション技術の高度化に取り組まれており、高度利用技術に関する研究開発において多くの成果を生み出されました。そこで得られた知見は、本センターの大規模科学計算システムの設計に生かされ、同システムの高度化に多大な貢献をされております。また、本センターで導入したスーパーコンピュータシステムの仕様策定委員長をはじめ、各種委員として長年センター運営に多大な貢献をされてきました。

全国共同利用・共同研究拠点である本センターにとって、大規模科学計算システムの潜在能力を最大限に引き出すための高度利用技術に関する研究開発、利用環境の整備、さらにそこから得られた知見を基に次期システムの設計を行うことは極めて重要であり、これらを円滑に推進するためには、大規模科学計算システムを先端科学分野の研究に実際に活用している研究者とシステム設計者であるサイバーサイエンスセンター研究者との協同が必要不可欠です。

表彰式は、平成 30 年 3 月 23 日（金）本センターで開催されていた第 27 回 Workshop on Sustained Simulation Performance の中で行われ、小林広明センター長特別補佐から岩崎教授へ表彰状が手渡されました。また表彰式の後、「Past, present and future of typhoon forecast」と題した受賞記念講演が行われました。



『受賞者のコメント』

東北大学名誉教授 岩崎 俊樹

サイバーサイエンスセンター功労賞を授与していただき、たいへんありがとうございます。ユーザーのひとりとして、我がままとを申し述べてきたことを評価していただき、大変恐縮しております。

1998 年に気象庁から東北大学理学研究科に異動して以来、サイバーサイエンスセンター（当時は大型計算機センター）には大変お世話になりました。大型計算機の役割が時代とともに変化する中、サイバーサイエンスセンターは、ユーザーの目線に立ち、高速化や利便性の向上、若手の教育などに努めてこられました。

地球科学のとりわけ気象学の進展は計算機の進歩によるところが大です。日々の気象予測は最も身近な計算科学の成果です。最尤推定のためのデータ同化や力学系の数値解の精度向上を図ることは、今後とも中心的な課題であり続けるでしょう。それに加え、気象分野ではデータ同化や数値予測によって生み出される膨大なデータを有効活用する研究が活性化し、データ科学との連携が重要な課題となりつつあります。東北大学においても、協力してそのような新しい大きな流れを先導していくことを願っています。